

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
見て・触れて・感じて・響き合う 子供を育てる	心と体で自然を感じ、 西和佐っ子を育てる 心身ともに健康でたくましい	遊びを通して学べる	遊びの環境の工夫
		友達とかかわる楽しさを味わう	保護者から96%の評価を得た。今年度も昨年度に引き続き、保護者の方々が築山の土あげをしてくださった。そして、この活動が保護者の方々の年間を通してのボランティア活動として、これからも引き続き行うこととなった。築山だけでなく、園庭の隅々まで、子供たちにとって楽しい遊び場になるよう、これからも見直しをしていきたい。また、園庭だけでなく室内も、子供たちが楽しんで遊べる環境を目指していきたいと考える。
		意欲的、主体的に活動するための十分な時間の確保	保護者から98%の評価を得た。自分でしたい遊びを選び、取り組む中で、同年齢のみならず異年齢の友達と自然にかかわる場面がたくさん見られた。気の合う友達と一緒に、時間を気にせず遊び込めることが出来る環境は、子供たちにとってとても大切な時間であると捉えている。また、遊びを通して、相手を思いやる気持ちや、意見が分かれたり、ぶつかったりしても折り合いをつけることを学べていると考えている。
		保護者への情報の発信	保護者から100%の高評価を得た。子供たちが自分で考えて遊びや活動に取り組み、自由に遊びを選択できることで、毎日満足感を味わっているのではないかと考える。そして十分な時間の確保をしていることで、子供たちの心の安定に繋がっているのではないかと考える。満足感、達成感を味わうことで気持ちを切り替え、クラス全体の活動に移行しても楽しんで取り組み、話を聞くこともできている。それらが、保護者の方々に浸透してきているのではないかと考える。
		保護者と子供の成長を共有し、連携を深める	保護者から100%の高評価を得た。今年度は様々な行事が出来るようになり、遊びの場の環境も変化し続け、子供たちが遊びや生活の中で育まれている様子や行事の様子を伝えることに努めてきた。行事等は、ホームページで出来る限り伝えられるように、また遊びの様子を通して、教師や園の教育観等を玄関に具体的に掲示してきた。これからも園だよりやクラスだより、ホームページの活用などに引き続き取り組んでいきたいと考えている。
		地域や小学校との連携や交流	保護者から98%の高評価を得た。毎日の送迎の時間に保護者の方々に子供の様子を伝えること、また保護者の方々と顔を見合わせて子供の様子を聞けることで、互いに子供の成長を共有出来ていると思っている。家庭では見られない子供の成長や様子、保護者の方々が気にしている子供の様子など、これからはしっかりと連携を取り、保護者の思いを受け止めながら家庭と共に子供を育てる意識を高め、取り組んでいきたい。
		園内や園庭の環境の工夫	保護者から100%の高評価を得た。今年度は、年長児が近所で田植え、全園児で田遊び、年長児が西和佐保育所への訪問をした。小学校とは、1年生、5年生との計画的な交流を通し、一緒に遊んだり、授業を見せてもらったりし、小学校への憧れの気持ちが芽生えているのではないかと考える。また、地域との連携も続けていきたいと考えている。そして子供たちが地域の方々から見守られ、親しみの気持ちをもてるようにしていきたいと考えている。
		食育の推進	子供たちの興味関心を探りながら、子供たちが自らかかわっていけるように園内の環境の工夫に努めている。また危険な場所がないか見回りや職員同士の意見交換を徹底し整備してきた。その結果、子供たちの視野が広がり、遊びも充実出来ているのではないかと考える。保護者から98%の高評価を得ている。引き続き、子供たちの様子をしっかりと見ながら、環境の工夫に努めていきたいと考える。
		自然への興味関心	子供たちが育てたい野菜を選び、楽しみながら栽培に取り組めた。自分たちで植えたからこそ、水やりや草引きをして成長を楽しみにしていた。毎日世話をしているからこそ、採り時を知っている子供が収穫した時に、調理をみんなでいただいた。子供たちが計画し、調理したことも楽しかったようである。保護者から100%の評価が得られたこともその様な活動からではないかと思う。栽培を通して食の楽しさ、大切さを感じられる様に取り組んでいきたい。
		環境になつて遊べる	保護者から100%の評価を得られた。昨年度に引き続き、四季を感じ、自然に関わるような環境の工夫に心がけてきた。季節を感じられるように花や野菜の手入れをし、子供たちは樹木の葉っぱで遊び、ピワ、キンカン、ドングリなどの実が採れた喜びを味わい、じゅう玉遊びや、草むらに様々な虫を見つけ楽しんでる。樹木の伐採を行い少し寂しくなったが、ドングリの植え替え等も、園庭の自然に関心をもっていたのではないかと考える。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

ほとんどの項目に於いて「とてもそう思う・そう思う」の好意的な反応であり、96%から100%の高い評価をいただいた。今年度は、様々な活動の規制が緩和され、少しずつコロナ前の状況に戻つつあることから、園生活も活気づいてきたように思う。そして、そのような状況の中での本園の教育に対して、保護者の方々がきちんと評価してくださったのではないかと考える。また、園への関心度の高さも伺える。遊びや環境の工夫については、まだまだ課題も見受けられるが、一人一人の子供たちが興味関心をもって楽しく過ごせる園の環境を目指して、取り組んでいきたいと考えている。また、保護者の方々と共に子供の成長を共有していくには、しっかりと発信し、伝え、対話していくことが大切であると考えている。今後も、保護者の方々に安心して預けていただけるように、また本園の教育について理解を深めていただけるように、教職員一丸となって努めていきたい。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

今年度は、子供たちが意欲的に遊び込めるように、園内や遊びの環境の工夫に加え、職員の援助の仕方についても話し合いを深めながら取り組んできた。職員同士の情報の共有、子供の様子の見方についての意見交換、また幼小連携のための研修なども行ってきた。職員の子供たちに対する合理的配慮も含め、質の高い教育を目指し、職員の研修やものの考え方などについても、これからも強化していきたいと考えている。子供たち一人一人が安心して過ごせるために、子供たちの様子をよく見てその場にあった援助をしていきたいと考える。西和佐幼稚園を選んで来てくれている子供たち、協力的な保護者の方々の思いにしっかりと応えできるようにしていきたいと考える。年々入園児数が減ってきていることが最大の課題であるが、これからも質の高い幼稚園教育を目指していきたいと考えている。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- ・幼稚園教諭の方々は、人員も少なく大変だと思うが、体に気をつけて事故のないようにしてほしい。
- ・参観の日、雨上がりの園庭で水の流れを作ろうと、生き生きと遊ぶ子供たちの姿を見て感じたことは、職員がその日その時の子供の気持ちを汲み、子供の願いを受け止め、教育的価値を瞬時に判断し、予定を変更してでも子供のしたいことを堪能させていたのではないかと。「子供の学びや成長のために、今、何が大切か」を判断する保育者の教育観が素晴らしいと感動した。今後も、公立幼稚園ならではの幼児教育の在り方を追求し、広く素晴らしい実践を敷衍してほしい。
- ・地域の目線で、時折子供たちの様子を見ているが、常に子供たちの生き生きとした姿が見られる。職員の援助や工夫された環境が安心して遊び学べる場である
- ・幼稚園の取り組みでは、概ね保護者の賛同を得ているが、「思わない」「あまりそう思わない」の保護者も数人いることをどう捉えるかが課題である。
- ・幼稚園の職員は、日頃から園庭整備や、子供たちのために工夫した環境づくりをしてきている。参観の様子を見ても、一人一人に寄り添ってあげていると感じることができた。園児数が減ってきていることは心配であるが、職員のきめ細やかな取組のおかげで、子供たちが元気に活動できていると感じる。